

第6回横浜国立大学HCD参加者の皆様

東日本大震災被災遺児に愛の手を！

第6回横浜国立大学HCD実行委員会

東日本大震災から約6カ月が過ぎました。東北の各県、各市町村の住民は、復旧・復興に向けて立ちあがり、少しずつではありますが、活気が戻りつつあります。その一方で、未だ行方不明者が数千人と、現在も搜索活動を続けております。そのような中で、今回の震災で親を亡くした子どもは1500人とも2000人とも言われています。両親を亡くした子ども、働き手の父親を亡くした子ども、母親を亡くした乳児など12歳未満の子どもが半数以上いるとのこと。子どもの大多数は、祖父母、曾祖父母あるいは親戚の方が保護者となって養育しておりますが、高齢故先々を心配している方もおります。また、児童養護施設や乳児院に入所した子どももおります。3月11日の午後2時46分までは普通に生活してきた子どもたち、突然襲った災害に、一瞬にして、大事な宝物を失ってしまいました。

あしなが育英会は、こうした子どもたちの支援のために、全国規模で、募金活動を行っております。また、この財団にお世話になった社会人、現在支援を受けている大学生、高校生などが中心になって、被災遺児の心のケアを定期的に行っているとのこと。心を閉ざした子どもたち、元気に振る舞うようにしている子どもたちが、彼らとの会話を通じて、今まで吐き出せなかった苦しみを一気に吐き出す姿を見て、親を失い、苦しみを味わった彼らも泣きながら共に手を携え、子どもたちが大人になるまで支援していこうと決意をしたようです。

第6回横浜国立大学ホームカミングデー実行委員会としても、何らかの形で被災遺児に手を差し伸べたいと考え、10月29日(土)、受付会場である大学会館及び交流会場の入口に義援金受付箱を用意致しました。金額の多少に係わらず子どもたちに愛の手を差し伸べて戴ければ幸いです。

皆様から贈られた義援金は、あしなが育英会に、鈴木学長と入江同窓会連合会長を代表とした第6回HCD実行委員会としてお届け致します。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(文責 第6回HCD実行委員長 久保田 貢)

